次の文章を読み，以下の設問に答えなさい。

問題1．次の文章は，福澤諭吉著『福翁自伝』の「はじめてアメリカに渡る」と「ヨーロッパ各国に行く」の一部です。この2つの文を読んで著者の観察の特色について400字以内で説明しなさい。

問題2．問題1.で答えたような観察眼を身につけるために，どのような素養が必要であるか，あなたの考えを600字以内で述べなさい。

（以下は「はじめてアメリカに渡る」の一部です）

事物の説明に隔靴の嘆あり

それからまたアメリカ人が案内して諸方の製作所などを見せてくれた。そのときはサンフランシスコ地方にマダ鉄道はできない時代である。工業はさまざまの製作所があって，ソレを見せてくれた。そこがどうも不思議なわけで，電気利用の電燈はないけれども，電信はある。それからガルヴァニの鍍金法（めっきほう）[1]というものも実際に行われていた。アメリカ人の考えに，そういうものは日本人の夢にも知らないことだろうと思って見せてくれたところが，こっちはチャント知っている。これはテレグラフだ。これはガルヴァニの力でこういうことをしているのだ。また砂糖の製造所があって，大きな釜（かま）を真空にして沸騰を早くするということをやっている。ソレを懇々（こんこん）と説くけれども，こっちは知っている，真空にすれば沸騰が早くなるということは。かつその砂糖を清浄（しょうじょう）にするには骨炭（こったん）でこせば清浄になるということもチャント知っている。先方ではそういうことは思いもよらぬことだと，こう察して，ねんごろに教えてくれるのであろうが，こっちは日本にいるうちに数年の間そんなことばかり穿鑿（せんさく）していたのであるから，ソレは少しも驚くに足らない。ただ驚いたのは，掃きだめに行ってみても，浜べに行ってみても，鉄の多いには驚いた。申さば石油の箱みたような物とか，いろいろなかんづめのあきがらなどがたくさん捨ててある。これは不思議だ。江戸に火事があると焼け跡にくぎ拾いがウヤウヤ出ている。ところでアメリカに行ってみると，鉄はまるで塵埃（ごみ）同様に捨ててあるので，どうも不思議だと思うたことがある。

注　①ガルヴァニの鍍金法とは，電気鍍金のことである。ガルヴァニは Luigi Galvani。電流の存在を発見したイタリーの物理学者（1737-1798）。

物価の高きに驚く

それから物価の高いにも驚いた。牡蠣（かき）を一びん買うと半弗（ドル），いくつあるかと思うと二十粒か三十粒ぐらいしかない。日本では二十四文か三十二文というそのカキが，アメリカでは一分二朱もする勘定で，おそろしい物の高い所だ，あきれた話だと思ったような次第で，社会上政治上経済上のことはいっこうわからなかった。

ワシントンの子孫如何と問う

ところでわたしがふと胸に浮かんである人に聞いてみたのは，ほかでない，いまワシントン②の子孫はどうなっているかと尋ねたところが，その人の言うに，ワシントンの子孫には女があるはずだ，いまどうしているか知らないが，なんでもだれかの内室になっている様子だと，いかにも冷淡な答で，なんとも思っておらぬ。これは不思議だ。もちろんわたしもアメリカは共和国，大統領は四年交代ということは百も承知のことながら，ワシントンの子孫といえば，たいへんな者に違いないと思うたのは，こっちの脳中には源頼朝（みなもとよりとも），徳川家康（とくがわいえやす）というような考えがあって，ソレから割り出して聞いたところが，いまのとおりの答に驚いてこれは不思議と思うたことは，いまでもよく覚えている。理学上のことについては少しも肝をつぶすということはなかったが，一方の社会上のことについては全く方角がつかなかった。

注　②ワシントン George Washington（1720-1799）は，アメリカ合衆国の初代大統領。イギリス本国の植民地政策を不当として反抗し，遂に本国から独立するに成功し，合衆国初代の大統領に選ばれた。

（以下は「ヨーロッパ各国に行く」の一部です）

事情探索の胸算

それはさておき，わたしのヨーロッパ巡回中の胸算（きょうさん）は，およそ書籍上で調べられることは，日本にいても，原書を読んでわからぬところは，字引を引いて調べさえすれば，わからぬことはないが，外国の人に一番わかりやすいことで，ほとんど字引にも載せないというようなことが，こっちでは一番むずかしい。だから原書を調べてソレでわからないということだけを，この逗留（とうりゅう）中に調べておきたいものだと思って，その方向でもって，これは相当の人だと思えば，その人について調べるということに力を尽して，聞くにしたがって，ちょいちょいこういうように（このとき先生細長くして古々しき一小冊子を示す）しるしておいて，それから日本に帰ってから，ソレを台にして，なおいろいろな原書を調べ，また記憶するところをつづ

り合わせて，西洋事情[3]というものができました。およそ理化学，器械学のことにおいて，あるいはエレキトルのこと，蒸気のこと，印刷のこと，諸工業製作のことなどは，必ずしも一々聞かなくてもよろしいというのは，元来わたしが専門学者ではなし，聞いたところが真実深い意味のわかるわけはない，ただひととおりの話を聞くばかり，ひととおりのことなら自分で原書を調べて容易にわかるから，コンナことの詮索(せんさく)はまず二の次にして，ほかに知りたいことがたくさんある。たとえばココに病院というものがある，ところでその入費(にゅうひ)の金はどんな塩梅(あんばい)にしてだれが出しているのか，また銀行(バンク)というものがあって，その金の支出入はどうしているか，郵便法が行われていて，その法はどういう趣向にしてあるのか，フランスでは徴兵令を励行しているがイギリスには徴兵令がないというその徴兵令というのは，そもそもどういう趣向にしてあるのか，そのへんの事情がとんとわからない。ソレカラまた政治上の選挙法というようなことが皆無(かいむ)わからない。わからないから選挙法とはどんな法律で議院とはどんな役所かと尋ねると，あっちの人はただ笑っている，なにを聞くのかわかりきったことだというようなわけ。ソレがこっちではわからなくてどうにも始末がつかない。また党派には保守党と自由党と徒党のようなものがあって，双方負けず劣らずしのぎを削ずって争うているという。なんのことだ，太平無事の天下に政治上のけんかをしているという。サアわからない。コリャたいへんなことだ，何をしているのかしらん。少しも考えのつこうはずがない。あの人とこの人とは敵だなんというて，同じテーブルで酒を飲んで飯を食っている。少しもわからない。ソレがほぼわかるようになろうというまでには，ほねのおれた話で，そのいわれ因縁が少しずつわかるようになってきて，入り組んだ事がらになると五日も十日も掛かってヤット胸に落ちるというようなわけで，ソレが今度洋行の利益でした。

注　③西洋事情は，福沢の代表的著作の一つで全十巻。初編三巻は慶応二年，外編三巻は明治元年，二編四巻は明治三年に，それぞれ刊行され，非常な売れ行きを示した。

福澤諭吉『福翁自伝』（富田正文校注，慶應義塾大学出版会，2001）からの抜粋である。